

CFA フランから ECO へ? : 西アフリカの共通通貨を巡る動向と展望

著者	正木 響
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アフリカレポート
巻	57
ページ	87-92
発行年	2019-11
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00051501



CFA フランから ECO へ？

—西アフリカの共通通貨を巡る動向と展望—

From the CFA franc to the ECO?:

An Interpretation on the Announcement of the New Common Currency for the ECOWAS

正木 響

MASAKI, Toyomu

はじめに

西アフリカ諸国経済共同体（Economic Community of West African States : ECOWAS）は、2019年6月29日、ナイジェリアの首都アブジャで開かれた首脳会議で2020年までに共通通貨 ECO の導入をめざすことを発表した。本宣言は、アフリカの通貨統合計画そのものを知らなかった人には新鮮な驚きであったようであるが、馴染みがある者にとっても驚かされるものであった。なぜなら、ECOWAS は、2000年4月に通貨統合に向けた具体的な計画案を示し、西アフリカ通貨研究所（West African Monetary Institute : WAMI）を設立して計画を推進してきたものの、約20年を経過した現在も、通貨統合は実現可能といえる状況にはないからである。本稿の目的は、本宣言の実現可能性を論じるよりもむしろ宣言の背景を解説することである。注目すべきは、ECOWAS よりもそのサブリージョンを形成している旧仏領西アフリカ諸国の動向の方である。

1. 西アフリカで流通する8つの通貨の概要

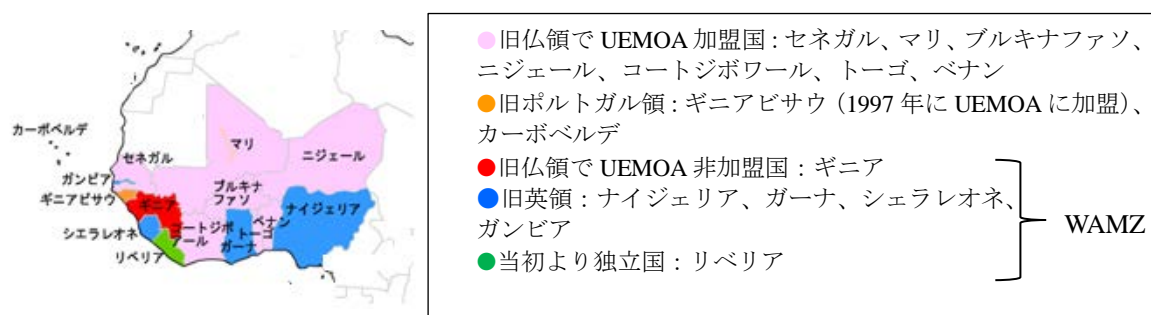
図1に見るように、現在15カ国が ECOWAS に加盟している。ただし、域内で発行されている通貨は8種類である。なぜなら旧仏領西アフリカ諸国を中心に8カ国から成る西アフリカ経済通貨同盟（Union Economique et Monétaire Ouest Africaine : UEMOA）というサブリージョンが CFA フランという共通通貨を既に共有しているからである（図1参照）¹。この CFA フランの歴史は1945

¹ UEMOA（本部：ブルキナファソのワガドゥグ）は1994年に設立された。1962年に形成された西アフリカ通貨

年 12 月に創設された「アフリカのフランス植民地フラン (Franc des colonies françaises d'Afrique)」に遡り、以来、CFA フランはフランスの通貨にペグされてきた。そして驚くことに、1948 年 10 月に 1CFA フラン=2 フランス・フラン (以下 FF) (ただしフランスのデノミで 1960 年に 1CFA=0.02FF) に固定されて以来、そのレートは 1994 年 1 月 12 日に CFA フランを 50% 切り下げた時の一度のみしか見直されていない。この 70 年間で、政治的独立を果たし、ブレトンウッズ体制が崩壊し、FF が消滅してユーロが誕生し、世界の金融市場が大きく様変わりしたにもかかわらずである。なぜなら①CFA フランを発行している西アフリカ諸国中央銀行 (Banque Centrale des Etats de l'Afrique de l'Ouest : BCEAO) が保有する外貨準備の一定割合 (当初 100%、1973 年に 65%、2005 年以降 50%) をフランス国庫に開かれた操作勘定に預けること、② BCEAO が保有する外貨準備をその短期負債 (主に発行した銀行券) の 2 割以上にすること等を条件に、旧宗主国フランスが無制限に CFA フランの通貨価値を保証しているからである。

本制度により、CFA フラン圏諸国の経済は安定し、インフレ率は低く保たれてきたが、身の丈にあっていない強い通貨が UEMOA 地域の競争力を弱め、経済成長を阻害しているという批判は根強い。対して、独立後、国民通貨を導入した西アフリカの国では柔軟な金融政策が可能であったが、その通貨は大きく価値を下げ、当該諸国は何度もインフレに苦しんだ。結果的に、旧ポルトガル領のギニアビサウは 1997 年に UEMOA に加盟し、カーボベルデは、1998 年以降、通貨エスクードをユーロにペグさせている。

図 1 ECOWAS 加盟国と旧宗主国の関係および現在のサブリージョン



2. ECOWAS レベルでの通貨統合計画と 2019 年に出された宣言の内容

奴隷貿易や宗主国による植民地支配を経験したアフリカでは、独立前からパンアフリカニズム運動が盛んであり、アフリカ大陸レベルで共通通貨を発行し、アフリカ経済共同体を形成するという夢が語られてきた。たとえば国連アフリカ経済委員会 (United Nation Economic Commission for Africa: ECA) は、アフリカ大陸を北、西、中部、東南部に分けてそれぞれに経済協力機構を創設

同盟 (Union Monétaire Ouest Africaine : UMOA) は西アフリカ諸国中央銀行 (本部: ダカール) を運営する母体として現在も機能している。なお、アフリカ大陸には、旧仏領赤道アフリカ諸国を中心に共有されているもう一つの CFA フランがある。こちらは中部アフリカ諸国中央銀行が発行する CFA フランでまったく異なる通貨になるが、同じレートでユーロにペグされている。CFA フランのしくみについての詳細は、正木 [2014a, b] を参照願いたい。

し、それらを統合させて大陸レベルの経済統合を実現するという計画を 1960 年代半ばに発表している。ECOWAS も本計画をきっかけに 1975 年に設立された。この ECA の計画は時を経てアブジャ条約（1991 年 6 月調印、1994 年 5 月発効）に発展し、ECOWAS を含む 8 つの地域共同体それぞれで通貨同盟を実現した後、それらを統合する形で 2028 年までに大陸レベルの共通通貨を発行することとなった。

これにあわせて ECOWAS は、まずは UEMOA とカーボベルデを除く 6 カ国で西アフリカ通貨圏（West Africa Monetary Zone : WAMZ）を形成して 2003 年までに共通通貨 ECO を発行し、最終的には WAMZ を UEMOA とカーボベルデに統合させて ECOWAS レベルの通貨統合を実現するという 2 段階プロセスを 2000 年 4 月に発表した（アクラ宣言）²。しかし、WAMZ 諸国は ECO 発行の必要条件となる収斂基準を満たせず、目標年は 2005 年、2009 年、2015 年そして 2020 年へと延期された。2015 年に収斂基準は 9 から 6 に集約されたが、それでもすべての条件を満たせる国は少なく、満たせても一時的なことが多い³。

このような状況下で、この度の宣言が出された。大きな変更点は 3 つある。まず、2000 年のアクラ宣言で出された 2 段階プロセスを廃止して、準備ができた国から ECO を導入するという漸進的な方法への変更である。これにより、WAMZ の 6 カ国がある程度収斂基準を満たすことが前提の当初案よりも ECO の発行が容易になった。そもそも、図 1 にみるように、WAMZ 諸国は地理的に分断されている。市場が分断された状態で通貨統合をするという計画そのものには最初から無理があった。二つめに、当初案では ECO は WAMZ の共通通貨の名称にすぎなかったが、ECOWAS の共通通貨の正式名称となった。そして最後に、ECO については変動相場制が採用されることとなった。

本宣言で注目すべきは、準備ができた国から ECO の発行が可能となり、これにより、「既に存在する UEMOA の共通通貨 CFA フランを ECO に代える」という道筋が開けたことである。2019 年夏に「2020 年に共通通貨を導入する」という、一見、荒唐無稽にみえる宣言も、この方法ならば不可能ではなかろう。もちろん変動相場制の採用を条件にすることで、「単に CFA フランを ECO に置き換える」のみではよしとしない点は強調されてはいるが、経過措置として固定相場制が一時的に認められる可能性はある。

3. 旧仏領西アフリカ諸国の動向

地域経済共同体として ECOWAS 自身が認識している大きな課題は、域内貿易の少なさである。順序が逆という気もするが、域内貿易を推進するための手段として通貨統合に期待を寄せる向きもある。対して既に 8 カ国で経済通貨同盟を形成している UEMOA の各国政府や BCEAO は、通貨圏をやみくもに広げることには慎重な姿勢を見せてきた。BCEAO はいずれの政府からも独立

² 詳細は杉本 [2007]を参照。

³ 6 つの収斂基準は以下の通り。①財政赤字(援助等含む)/GDP<3%、②平均インフレ率<10% (ただし、2019 年までには 5%)、③中央銀行の財政赤字ファイナンス総額/前年の歳入<10%、④外貨準備>輸入の 3 カ月分、⑤公的累積債務/GDP<70%、⑥為替レートの変動<10%。



した中央銀行であり、政府の財政赤字を中央銀行が限度を超えてファイナンスすることは認められておらず、不安定な通貨価値や高いインフレ率に悩まされることもなかった。大国ではあるが不安定な財政・金融政策をとるナイジェリアとの通貨統合にはむしろ後ろ向きですらあった⁴。

実際、UEMOA のリーダー国コートジボワールのワタラ (Ouattara) 大統領も、かねてより CFA フランから ECO へという論調に反対の姿勢を示してきた⁵。しかし、ワタラ大統領は、アブジャでの宣言直後の7月9日にパリでフランスのマクロン (Macron) 大統領と面会し、続いて7月12日に自国のアビジャンで開催した UEMOA 首脳会議で、2020 年までに ECO 導入を目指すことを改めて発表した。ただし「ECO 貨幣の流通が開始されても当面は、従来のユーロと CFA フランの為替平価によるペッグ制は維持される」こと、「変動相場制への移行には少なくとも 10 年を要する」という独自の見解を織り込むことを忘れてはいない [渡辺 2019]。同じく7月12日にマクロン大統領も、パリを公式訪問したガーナのアクフォ＝アド (Akufo-Addo) 大統領を迎えた集まりの場で、CFA フランについて議論をすることはもはやタブーではなく、アフリカ諸国が団結して独自の共通通貨を発行することを歓迎すると断言した。

CFA フランは、ド・ゴール (De Gaulle) 大統領以降、第5共和政下でとられてきたフランスのアフリカ政策 (Politique Africaine) の3本柱——フランス軍の駐留、フラン圏、援助——の一つであった。対して CFA フランの通貨価値はアフリカ側の経済状況を考慮もしくは反映して決まっているわけではなく、中央銀行が保有する資産の一定割合をフランス国庫に預けなければならないという現制度は、本来、アフリカの経済振興に使うべき資産をフランスに召し上げられているととれ、パターンリスティックなフランスのアフリカ政策と併せて、しばしば批判の対象となってきた。

こうした批判の急先鋒がトーゴ人エコノミスト、カコ・ヌブポ (Kako Nubukpo) である。彼は16世紀に活躍したフランスの知識人エティエンヌ・ド・ラ・ボエシ (Étienne de La Boétie) の言葉「la servitude volontaire (自発的隷従)」を用いて CFA フランを批判する⁶。そして2016年には、アフリカ人エコノミスト仲間らと一緒に、「la servitude monétaire (貨幣的隷従) からアフリカを救え」という書籍を出版している [Nubukpo et al. 2016]。彼らは象牙の塔に籠った学者というよりは行動する知識人であり、メディアを通じて大衆にわかりやすい言葉で問題をアピールする。

そうしたアピールに期待通りの反応をみせているのが、SNS を駆使する若者たちである。そもそも、近年、アフリカではセネガルのヤナマール (Y'en a Marre : もううんざりだ) 運動やブルキナファソのル・バレ・シトワイヤン (Le balai citoyen : 市民の箒) といった権力者の腐敗を糾弾する下からの社会運動が活発である⁷。彼らは中央銀行や官僚が推進する政策に懐疑的で、民衆の生活は変わらないどころか悪くなっていると考える。若者に人気のあるラッパーが運動に関わることも珍しくなく、国境を越えて広がった社会運動は21世紀のパンアフリカニズムとも呼ばれる新

4 ナイジェリアは ECOWAS 全体の 65% の GDP、人口の 51% を擁する。World Bank による World Development Indicator の 2018 年のデータより筆者計算。

5 たとえば、Afrique Panorama [2019]。また、2019 年 2 月にワタラ大統領がマクロン・フランス大統領に会った際にも、CFA フラン維持の姿勢が明らかにされている [La Croix 2019]。

6 Nubukpo [2007]。ラ・ボエシは、支配・被支配構造は、被支配側が率先して支配されることを選択しているがゆえに成立していると説く。ラ・ボエシ [2013] を参照。

7 ヤナマール (もううんざりだ) 運動については、Savané and Sarr [2012] を参考。



たなムーブメントを生み出している。パンアフリカニスト達にとっては、CFA フランはアフリカ諸国間での協力を妨げ、アフリカの主権を奪う植民地時代の遺産でしかない。7 カ国から集まった 10 人のrapper が「7 minutes contre le CFA (CFA フランに反対する 7 分間)」を歌って YouTube で配信するという現象も生まれた。2017 年 8 月には、フランス・ストラスブルグ生まれのベナン人パンアフリカニスト、ケミ・セバ (Kemi Seba) が、ダカールのオベリスク広場で CFA フラン紙幣を燃やしてそれを Facebook に投稿し、セネガル領土から追放されるという事件も起きた。その時、セネガル政府を「恥」だと糾弾したのが、ヤナマール運動のリーダーの一人ティアット (Thiat) である。この度の宣言は、こうした民主運動の担い手達に諸手を挙げて支持されていることは言うまでもない。

今後の展望：政治経済環境の変化とポピュリズムの台頭を前にして

植民地時代を知らない初のフランス大統領マクロンは、2017 年 11 月 27 日、自身初のアフリカ訪問となったブルキナファソで、「もはやアフリカ政策 (Politique Africaine) など存在しない」と明言する。実際、フランスからみた対 UEMOA 貿易シェアは、2014 年 1 月から 2018 年 12 月までの 5 年間だけをとってみれば、総輸出額の 0.7%、総輸入額で 0.2% にすぎない⁸。つまり、フランスにとっては、もはや UEMOA 地域は批判を受けてまで守るべき魅力的な市場でもなく、多大なコストを払って本制度を積極的に一から見直すほどの地域でもないのである。

では、UEMOA 諸国が CFA フランをフランスの通貨から切り離す障害はなくなったのであろうか。実は、CFA フランをユーロから切り離しても、通貨統合をしている限り、いずれの UEMOA 加盟国も自国に最適な金融政策を自由に打ち出すことはできない点には変わりはない。むしろ、加盟国間の経済水準に差があるだけに、どのような金融政策であっても、すべての加盟国が満足する政策が選択されることはなかろう。長い時間をかけて誕生したユーロ圏ですら加盟国間の利害調整に苦勞している。フランスの軛から離れた途端、UEMOA そのものが崩壊してしまう危険性もないわけではない。UEMOA 諸国の官僚や BCEAO のバンカーは以上の構図を理解している。他方で、現体制に反発した下からの民衆運動の担い手はその点を理解しているかは疑問である。UEMOA が崩壊してしまえば、パンアフリカリズムの理念そのものも後退してしまう。つまり、現在の CFA フラン問題を旧宗主国とアフリカの対立構造で捉えると実体を見誤る。むしろ、現体制からの便益を認識する政策決定者と「わかりやすい論理」に先導された大衆の間の認識の違いが対立を生じさせているのである。

もともと、現体制からの便益を認識している政策決定者達にとっても、マクロン政権のフランス国内での不人気は不安要素の一つに違いない。2019 年 5 月に行われた EU 議会選挙では、フランス与党が極右の国民戦線に敗れている。その国民戦線党首のマリーヌ・ル・ペン (Marine Le Pen) 氏は、2017 年 5 月の大統領選挙前に訪問したチャドで CFA フラン制度の廃止を訴えている。皮肉なことに、旧植民地の面倒など見たくはないフランスの極右と主権奪回を訴えるアフリカの社会

⁸ IMF の Direction of Trade データベースより筆者計算。



運動家の目的は一致している。2022年にル・ペン・フランス大統領が誕生する可能性が完全に否定できない状況下で、UEMOAの官僚やBCEAOのバンカーの中に、今のうちに穏便に新しい方向を模索したいと考える人がでてきてもおかしくないとは筆者は推測する。

以上にみるように、この度の宣言で注目すべき点は、CFAフランをユーロから切り離してECOに置き換える可能性に道が開かれたことである。これはCFAフランの制度を見直すことに躊躇してきたUEMOAの官僚やBCEAOのバンカーにとっては、内向きにはCFAフランを捨ててECOへの移行（＝フランスへの隷従からの脱却）が強調できるという利点を持つ⁹。仮に実現すれば、ガンビアのように地理的にUEMOAに囲まれた小国、仏語圏のギニア、そしてユーロに通貨をpegさせているカーボベルデなどもUEMOAに加入しやすくなるだろう。UEMOA自身、既に旧ポルトガル領のギニアビサウをメンバーに加えた経験を持つ。特に、経済・人口規模の小さい国がUEMOA圏に入ることのメリットはコスト以上に大きいはずである。ただし、それが計画通りに進展するか、そして実現したとしてもナイジェリアを含む通貨圏拡大に結び付くかは不透明であり、特に後者については実現するとしてもかなり先のこととなるだろう。

[謝辞] 本研究は科学研究費補助金16K03771「通貨から見る西アフリカ地域経済の分断と再統合の可能性の検証：20・21世紀」（研究代表者 正木響）の助成で実施されました。

（2019年8月18日投稿、9月25日脱稿）

引用文献

〈日本語文献〉

- 杉本喜美子 2007. 「西アフリカの通貨統合-是非と展望」『アフリカレポート』45号9-14.
 正木響 2014a. 「西アフリカ(経済)通貨同盟の成り立ちと近年の動向(前篇)」『アフリカ』54(3) 40-49.
 —2014b. 「西アフリカ(経済)通貨同盟の成り立ちと近年の動向(後篇)」『アフリカ』54(4) 38-47.
 ラ・ボエシ, E.D. 西谷修監修, 山形浩嗣訳 2013. 『自発的隷従論』筑摩書房.
 渡辺久美子 「共通通貨 ECO を 2020 年までに導入へ、UEMOA 首脳会議(コートジボワール)」『JETRO ビジネス短信』2019年7月26日配信(<https://www.jetro.go.jp/biznews/2019/07/05f0a6cf4bf75770.html>, 2019年7月26日アクセス).

〈外国語文献〉

- Afrique Panorama*. “Le président ivoirien s’oppose à la création de la nouvelle monnaie de la CEDEAO (ECO)”, 5 July 2019 (<https://afriquepanorama.com/2019/07/05/le-president-ivoirien-soppose-a-la-creation-de-la-nouvelle-monnaie-de-la-cedeao-eco/>, 2019年10月4日アクセス).
La Croix. “Reçu par Macron, Ouattara défend le franc CFA, “une monnaie solide””, 16 February 2019 (<https://www.la-croix.com/Monde/Recu-Macron-Ouattara-defend-franc-CFA-une-monnaie-solide-2019-02-16-1301002922>, 2019年10月4日アクセス).
 Nubukpo, Kako 2007. “Politique monétaire et servitude volontaire:La gestion du franc CFA par la BCEAO”, *Politique Africaine*, 105, 70-84.
 Nubukpo, Kako, Martial Ze Belinga, Bruno Tinel, and Demba Moussa Dembélé eds. 2016. *Sortir l’Afrique de la servitude monétaire : A qui profite le franc CFA ?* Paris: La Dispute.
 Savané, Vieux and Baye Makébé Sarr 2012. *Y’en a Marre, Radioscopie d’une jeunesse insurgée au Sénégal*, Paris:Harmattan (真島一郎監訳・解説、中尾沙季子訳 2017. 『ヤナマール セネガルの民衆が立ち上がるとき』勁草書房.)

（まさき・とよむ／金沢大学人間社会研究域経済学経営学系）

⁹ ただし、20年近くをかけてWAMZ形成に努力してきたWAMIなどの反応は複雑である。（2019年7月30日に行った関係者へのインタビューより）

